

平成26年度 事業計画

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

I 基本方針

「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、展示動物や園内の里山を活用し、多様な生物の世界やいのちのつながりを伝えるとともに、自然に親しむ楽しさ、自然環境の大切さを市民に提供していく。また、他施設や諸団体と連携する事業を充実させ、その中で、より多くの市民の余暇の活用と地域の活性化への貢献や、市民が自然に対する生き方も体感し、考えることのできる場所となるように、園の統一的な事業展開と営業企画を実施する。

さらに、ファミリーパーク新整備計画に基づき、園内を有料・無料区域に分け、この区域を活用し、呉羽丘陵の活性化、回遊性並びに地域の情報発信のための拠点としての役割を果たしていくものとする。また「環境未来都市」に関する取組に引き続き参画し、市民が自然により親しめる市民本位の事業を計画し、明るく楽しい、魅力あふれる自然公園を目指すものとする。

II 事業計画

1 ファミリーパーク新整備計画及び「環境未来都市」に関する取組への継続参画

(1) ファミリーパーク新整備計画に基づき、今年度から園内を有料・無料区域に分け、これに対応する事業等を実施し、無料区域から呉羽丘陵への誘導及び、地域の情報発信の拠点となるよう努めるとともに、これに対応する組織体制について検討する。また、今後の整備計画について引き続き富山市と協議を進める。

さらに、呉羽丘陵を舞台にした「環境未来都市」に関する取組（フィールドミュージアム形成プロジェクト）に引き続き参画し、富山市や各団体、大学等と連携を図りながら事業を推進する。

(2) 有料・無料区域の設置目的を達成するための各種事業のプログラムの開発と、持続的な仕組みづくりについて3年を目途に作成する。

(3) 有料・無料区域の利用状況を見ながら市公園緑地課と協議し、愛称の検討を行う。

(4) 環境未来都市プロジェクトと、無料区域や呉羽丘陵を連動させる事業プログラムの検討と開発を行う。

(5) 4月28日にファミリーパークが開園30周年を迎えることから、これを記念した事業を年度内で随時実施する。

2 公益目的事業

(1) 施設管理事業

- ・快適な観覧環境を来園者に提供するために、建物及び設備等施設の維持管理を行う。
- ・施設の老朽化に伴う安全対策の徹底やトイレの改修など利用者の利便性の向上を図る。
- ・新整備計画に基づく施設整備への対応。
- ・入園料等の徴収と富山市への納付を行う。

(2) 動物管理事業

動物の展示・収集と教育啓発、繁殖研究を里山の自然や文化と結びつけて展開し、生物の多様性について伝える。また、国内外の動物園や研究施設、関係省庁等と連携し、日本及び外国産の希少野生動物の飼育・繁殖技術の確立に取り組む。さらに、在来家畜などを活用した動物とのふれあいを通して命の大切さや人と動物の関わり大切さを伝える。

また、ファミリーパーク新整備計画事業における、(仮称) 命ふれあい冒険村 (いのちの体験ゾーン) の事業計画や整備計画について検討、協議を進める。

①飼育展示事業

動物の行動展示の充実、積極的な動物収集及び繁殖計画の推進を通していのちの大切さを伝える。また、里山生態園の展示の充実に努め、野生動物と人と里山環境との関係について伝える。さらに、日本在来家畜の展示を通して、日本人との関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

また、飼育動物ごとにコレクションプラン (展示、収集、繁殖計画) を作成し、これに基づいて事業を実施する。

②繁殖研究事業

飼育動物ごとにコレクションプラン (展示、収集、繁殖計画) を作成し、これに基づいて繁殖に取り組む。特に日本産希少野生動物について、関係機関等と連携して、繁殖研究に取り組み、飼育繁殖技術を蓄積し、保護増殖に努める。

③教育啓発事業

動物を活用した各種ガイドやイベント、実習・研修などの体験プログラムを充実させる。特に、里山生態園における里山の人と野生動物のかかわりや問題点などを伝えるガイド活動や、こどもどうぶつえんにおける動物とのふれ

あいを通した、生物の多様性やいのちの大切さを実感できる体験活動の拡充を図る。

④調査研究事業

様々な動物の飼育展示・繁殖、教育啓発に関する調査研究によって得られた成果や情報を展示や解説活動、出版、各種研究会発表などで発信する。

⑤在来馬保全活用事業

木曾馬や野間馬の展示や乗馬体験について事業の展開と充実を図り、日本人と在来家畜の関わりや文化を伝え、その普及を図るとともに、他品種の新規導入につとめ、在来馬の保存に努める。

⑥ライチョウ保護増殖事業

引き続きスバルバルライチョウの飼育繁殖に取り組み、技術の向上を目指しながら、ニホンライチョウとその生息環境の現状を伝え、高山の環境保全の大切さを普及啓発する。また、ニホンライチョウについては、環境省の保護増殖事業計画に基づいて、域外保全に向けた科学的および技術的な知見の蓄積に取り組み始め、(公社)日本動物園水族館協会および国内飼育園館などとの情報交換や共同研究を推進する。

⑦ホクリクサンショウウオ域外保全事業

絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの飼育繁殖に取り組み、企画事業課と連携し、園内を中心とした呉羽丘陵の生息地で域内保全および域外保全に向けた科学的および技術的な知見の蓄積に努める。また、その生態展示を通して、ホクリクサンショウウオの生息環境の現状を伝え、里山環境の保全の大切さを普及啓発する。

(3) 地域事業

地域の施設や住民と連携し、ファミリーパークが位置する呉羽丘陵が持つ資源を活用して、市民が気軽に訪れ、憩うことができる呉羽の森の賑わいづくりに取り組む。また、自然や文化などの魅力を引き出し、地域の活性化を図ることで「時代にあった新しい里山再生のモデル」となることを目指す。さらに、ファミリーパーク新整備計画に基づき、園内を有料・無料区域に分け、無料区域が呉羽丘陵の活性化や回遊性のための拠点としての役割を果たすよう活用を図るとともに「環境未来都市」に関する取組に参画し、事業の推進を図る。

① 経営企画事業

入園者サービスのさらなる向上を目指すとともに、公益財団法人としての、事業の企画運営、組織経営や新整備計画に基づく、園内の有料・無料区域の運用及び今後の組織体制について検討する。また、「環境未来都市」に関する取組などについて検討を進める。

② 広報・広告事業

ファミリーパークに関する各種情報や地域からの情報、実施事業の案内などホームページを活用した情報提供の充実に努める。また、SNS（ソーシャルネットワーキングサービスの略、フェイスブック等）などを活用した広報活動を引き続き充実させる。また、30周年記念誌を製作、発行する。

③ 悠久の森事業

悠久の森実行委員会やその関係団体と連携し、呉羽丘陵を広く活用したフェスタ・フォーラム、里山ネット事業などを展開する。また、「呉羽丘陵の生き物保全・普及」事業ではホクリクサンショウウオやホタルの生息地での環境整備活動や小学校への出前事業などをこれまでのネットワークを基盤に展開し、地域住民が一体となって生き物の保全活動に取り組んでいく仕組みづくりを行う。

④ 輝けいのちの事業

輝けいのち協議会と連携し、いのちの尊さを普及啓発する事業「輝けいのちの集い」を実施し、小中学校、高等学校などの児童・生徒、PTA関係者などとの連携を深め、さらに定着・発展を図る。また、ファミリーパークが30周年を記念し、開催するシンポジウムに協力する。

⑤ 地域連携事業

富山市や県内の大学、各種団体など、産官学民との連携を図り、そのネットワークを活用した健康、スポーツ、文化、自然などの行事や、教育活動を独自に企画実施し、このことにより、幅広い年齢層を対象にファミリーパークや呉羽丘陵の利用を促進し、持続可能な地域社会づくりにつなげる

⑥ ボランティア活動支援事業

市民団体や企業による園内での整備活動などのボランティア活動を支援するとともに、活動の園内誘致に努める。

⑦ 活性化事業

- ・ゴールデンウィークや夏休みなど、季節に応じたイベントを企画・実施するとともに、無料区域の活用を図りながら幅広い年齢の方が楽しめる内容を検討する。
- ・富山市や公共機関、学校、企業団体などが主催するイベントに協力する。

⑧ 動物・里山教育プロジェクト事業

富山大学や富山県立大学、NPOきんたろう倶楽部等と連携し、呉羽丘陵で展開する新しい教育・健康プログラムの研究開発を実施し、新整備計画及び「環境未来都市」に関する取組と関連させながら、その効果測定を行うとともに、薬草や和紙など富山の特徴を活かした新しい里山活用システムの構築に引き続き取り組む。

(4) 里山事業

園内の里山を活用し、市民が楽しみながら体験を通して里山を知ることができる事業を行う。また、その自然環境の保全と生物多様性を図るため、里山に生息する野生動植物等の保護・生息調査ならびに啓発活動を実施する。

さらに、ファミリーパーク新整備計画に基づき、園内の有料・無料区域の運用及び「環境未来都市」に関する取組に参画し、事業の推進を図る。

① 里山活用事業

小、中、高校生などを対象とした校外学習やわくわく田んぼでの活動、団体や一般公募によるクワガタ、カブトムシを教材とする体験教室、和紙づくり事業を継続して実施する。

② 里山保全管理事業

生物多様性のための環境づくりを目的に、ホクリクサンショウウオの産卵地の保全など自然環境保全とそのための管理について動物管理事業及び地域事業と連携して域内保全事業を進める。また、ホタルが飛び交う呉羽丘陵にするため、地域の小学校、自治会等と連携し、ホタルの生息状況を調査する。さらに、富山県内のホタル保全団体との連携や意見交換を通して、身近な自然環境の現状と課題を伝えていく。

③ 里山整備研究事業

地域やボランティアの方々と連携し、引き続き希少野生動植物の環境保全を行い、ギフチョウなどの定着を図る。また、竹林跡地に多様な生物が生息できるよう、整備及び調査を行う。一方、園内の自然林にはムササビや野鳥の繁殖用に巣箱を設置するとともに、身近な野生動物の生態を展示し、ホームページでも紹介する。

3 収益事業等

(1) 収益事業

施設内における物品並びに飲食物販売を通し、ファミリーパーク施設の利便性を向上させる事業及び新整備計画における無料区域での食や賑わいを創出する事業を推進する。

① 売店・食堂事業

- ・ 季節やイベントに合わせた出店や移動販売を行う。
- ・ ファミリーパークのオリジナル商品の開発に努める。
- ・ 森の遊園地周辺でのアウトドアクッキング教室や、地元の食材を使ったメニューの開発に努める。
- ・ 民間企業への協力を依頼する。

②ホースライド事業

- ・引き馬による乗馬、乗馬教室、障害者乗馬会などの乗馬体験や馬のエサやり体験などを行う。
- ・入園者のニーズやセラピー効果を目的とした乗馬体験の企画・開発に努める。

(2) その他の事業

① 遊園地維持管理運行事業

- ・施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。
- ・各種法定検査を実施しながら、運行の安全性の維持を図るとともに、今後の運営について市と協議する。
- ・遊具使用料等の徴収と富山市への納付を行う。

4 法人会計

- (1) 公益財団法人として適正な運営に努める。
- (2) 公社の財務会計及び予算・決算等の経理を行う。

5 ファミリーパーク施設使用料徴収受託事業

		内 訳	
入 園 見 込 数		有料入園者数	79,892 人
		無料入園者数	220,108 人
		総入園者数	300,000 人
入 園 料	42,917千円	個人大人	500 円 × 59,400 人 = 29,700,000 円
		団体大人	400 円 × 11,500 人 = 4,600,000 円
		個人70歳以上	250 円 × 500 人 = 125,000 円
		共通パスポート(販売)	1,000 円 × 8,492 人 = 8,492,000 円
遊具使用料	19,800千円	アニマルコースター等	200 円 × 82,400 回 = 16,480,000 円
		電気周遊車	100 円 × 18,000 回 = 1,800,000 円
		ボート	400 円 × 3,800 回 = 1,520,000 円
合 計	62,717千円		